

2017年～2023年に所属していた選手を対象にする研究へご協力をお願い

①研究課題	大学男子ラグビー選手の足関節捻挫に関する疫学調査 ～復帰時期の予測に着目して～
②対象者及び対象期間	2017年4月1日～2023年12月31日に、筑波大学ラグビー部に所属されていた選手211名 ※除外基準：調査期間中、外傷・障害によるリハビリテーションなどを理由に一度もチームの練習に参加しなかった選手、調査期間途中でチームを退部した選手
③研究の目的・意義	本研究は、大学男子ラグビー選手の足関節捻挫の疫学特性を明らかにし、復帰時期に影響を及ぼす因子を検討することを目的としています。足関節捻挫受傷者に対して、現場で有効に活用できる指標となり得ると考えています。
④研究期間	承認日～2028年度3月31日まで
⑤研究に用いる情報の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人特性（年齢、学年、身長、体重、既往歴、競技歴、ポジション）</li> <li>・メディカルチェック項目（股関節・足関節の可動域・筋力、慢性足関節不安定症の評価指標、足関節動的バランス能力評価指標）</li> <li>・足関節捻挫に関する情報（発生件数、発生率、受傷メカニズム、リハビリ日数、受傷後の症状）</li> </ul>
⑥情報の利用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集されたデータは、解析する前に氏名などの個人情報削除し、新たな符号（番号）を付け、本人を特定できないようにします。</li> <li>・匿名化した上で、パスワードロックのかかる情報漏洩対策を行なった本研究専用のハードディスクに保管し、当研究室にて管理いたします。</li> <li>・利用される情報及びデータは研究終了後10年間保存され、保管期間終了後には、データを完全消去します。</li> <li>・外部への情報の提供は行いません。</li> </ul>
⑦研究責任者	筑波大学 体育系 准教授 竹村雅裕 Tel : 029-853-3962 E-mail : takemura.masahiro.gw@u.tsukuba.ac.jp
⑧問合せ先	筑波大学大学院 スポーツ医学学位プログラム 金賢宰 E-mail : guswo8804@gmail.com

本研究のために、新たなデータを収集するための調査は実施されません。

本研究に関するご質問などがある場合や研究対象となるご本人の情報を使用してほしくない場合は、上記の問い合わせ先に、4月30日までにご連絡ください。

ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究内容の詳細については、添付資料をご覧ください。

## 研究の概要

### (1) 背景

ラグビーにおける足関節捻挫は発生率及び重症度が高いことが問題視されているが、疫学的特性に関する研究は対象がプロレベルの選手に限定され、若年者における研究は少ない。また、足関節捻挫は再発率が非常に高く、既往歴が捻挫の最も大きなリスク因子であると言われているが、今までの疫学調査では、既往歴の有無を考慮せず（初発捻挫と再発捻挫を区別せずに）、行われた研究がほとんどである。また、高価な装備を揃えていないスポーツ現場では、復帰時期を予測するために、簡易的に評価できる指標が必要であり、復帰日に関わる因子を検討することは重要である。今まで復帰時期に関しても、既往歴の有無を考慮して行なった研究はないため、初発捻挫と再発捻挫を区別して検討する必要があると考えられる。

### (2) 目的及び意義

本研究の目的は、大学男子ラグビー選手における足関節捻挫の疫学的特性を明らかにし、復帰時期に影響を及ぼす因子を検討することとする。既往歴の有無による、足関節捻挫受傷状況を明らかにし、初発捻挫と再発捻挫の間に疫学的特性の差があるならば、復帰時期を検討する際にも既往歴の有無を考慮して検討を行う。足関節捻挫後に記録された内容及び、メディカルスクリーニングとして測定された項目及び質問紙を用いて、足関節捻挫後、復帰時期に影響を及ぼす因子を明らかにし、現場で簡易的に使える評価指標を考案することで、チームスタッフ及び選手にとって有効に活用できる情報が提供できることが期待される。

### (3) 方法

本研究では、筑波大学ラグビー部の活動中に生じた外傷・傷害記録、メディカルチェックの際に取得した情報の提供を受けて行われる。これらの情報の提供を受けるために、筑波大学ラグビー部監督に研究協力依頼をし、承諾を得た上で、データの提供を受ける。本研究は公開及びオプトアウトの手続きを用いて実施する。研究内容及び情報処理方針は筑波大学ラグビー部のホームページに公開し、1ヶ月間のオプトアウト期間を設ける。この期間内に異議が申し立てられなかった場合、研究対象者は本研究に同意したものと見なし、データを使用する。一方、異議が申し立てられた場合、その対象者のデータは分析から除外する。

#### 研究課題 1（研究デザイン：記述疫学研究）

- ・ 研究対象者：2017～2023年に在籍していた筑波大学ラグビー選手211名
- ・ 除外基準：調査期間中、外傷・障害によるリハビリテーションなどを理由に一度もチームの練習に参加しなかった選手、調査期間途中でチームを退部した選手
- ・ 分析項目：足関節外傷・障害データ（発生率、重症度、受傷機転、injury burden、診断名）
- ・ 分析方法：既往歴の有無により初発捻挫と再発捻挫に分け、調査期間中に発生した足関節捻挫の発生状況を分析（発生率・重症度・受傷機転を確認）

#### 研究課題 2（研究デザイン：後ろ向き研究）

- ・ 研究対象者：2017～2023年に在籍していた筑波大学ラグビー選手211名
- ・ 除外基準：調査期間中、外傷・障害によるリハビリテーションなどを理由に一度もチームの練習に参加しなかった選手、調査期間途中でチームを退部した選手
- ・ 分析項目：調査期間中、足関節捻挫受傷者に対する身体特性、既往歴、ポジション、受傷機転、足関節捻挫後の症状・処置、重症度

#### 研究課題 3（研究デザイン：前向き研究）

- ・ 研究対象者：2017～2023年に在籍していた筑波大学男子ラグビー選手211名
- ・ 除外基準：調査期間中、外傷・障害によるリハビリテーションなどを理由に一度もチームの練習に参加しなかった選手、調査期間途中でチームを退部した選手
- ・ 分析項目：メディカルチェック内容（身体特性、股関節・足関節の可動域及び筋力、慢性足関節捻挫質問紙；※CAIT、動的バランス能力テストスコア；SEBT）、足関節捻挫受傷者に対するチェック項目（腫脹による足関節周径、圧痛、片脚荷重動作）  
※CAIT（質問紙）はメディカルチェックの際に紙媒体として習得したものを利用する。

#### （4）予想される研究上の貢献、および本研究課題の出口

研究課題 1 では、足関節捻挫のリスク因子である既往歴の有無による足関節捻挫の疫学的特性を調査することで、初発捻挫と再発捻挫の発生率、重症度、受傷機転といった疫学的特性に差があるかを明らかにし、ラグビーにおける足関節捻挫に関する疫学調査の方向性を提案する。

課題 2・3 では、足関節捻挫受傷後、復帰するまでかかる日数に影響を及ぼす因子を後ろ向き研究及び前向き研究を行うことで調査する。スポーツ現場で簡易的に確認可能な項目を利用した評価指標を考案し、チームスタッフや選手に有効に活用できる情報を提供することが期待される。